



【理念】

「愛し愛される病院」

【基本指針】

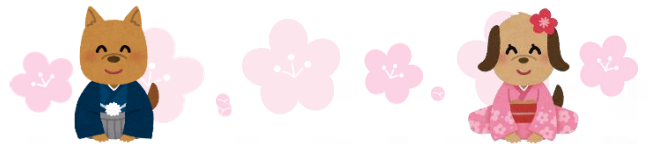
- 1、私たちは、患者様、ご家族に「おもいやり」をもって接します。
- 1、私たちは、地域に信頼され貢献できる医療を提供いたします。
- 1、私たちは、患者様の在宅復帰を支援いたします。
- 1、私たちは、診療記録を正確に記載いたします。
- 1、私たちは、自己研鑽しよりよい病院を目指します。

【患者様の権利】

- 1、患者様は医療に関する説明を十分受けた上で、治療を受ける権利又は拒否する権利が有ります
- 2、患者様は医師、医療従事者が患者様の知り得た個人情報を守られる権利が有ります
- 3、患者様は病院、医師を自由に選ぶ権利が有ります
- 4、患者様は安全で適切な医療を平等に受ける権利が有ります
- 5、患者様は診療録の開示を求める権利が有ります

新年のご挨拶

あけましておめでとうございます。



杉並リハビリテーション病院が101全ベッド回復期リハビリテーション病棟になり、10回目のお正月を迎えました。

回復期リハビリテーション病棟は、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血などの脳血管疾患や大腿骨頸部骨折などの患者さまに対して、日常生活動作能力の向上などを目的にリハビリテーションを集中して行い、自宅復帰・社会復帰を支援するための病棟です。

より充実した、皆様に満足いただける病院を目指して、利用されている方が望まれているリハビリテーションを提供することを念頭におき、患者さまご家族からの“元気になって帰れます、ありがとう”との声に支えられて、皆様のリハビリテーションに取り組んでおります。

入院された患者さまが安心して自宅での生活にもどられますよう、患者さまご家族の皆様ならびに地域から信頼され、地域に貢献する魅力ある病院として、「愛し愛される病院」の理念の下、職員一同、熱い思いで取り組んでおります。

くも膜下出血後の水頭症

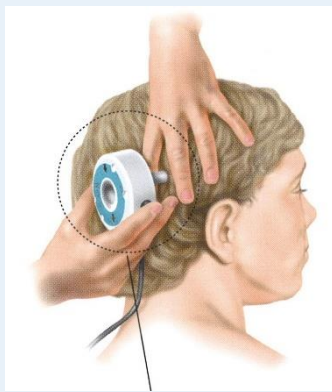
脳動脈瘤破裂などによるくも膜下出血では、それに続いて脳の中や表面を流れている脳脊髄液（髄液）の流れが悪くなり「水頭症」が起きてくることがあります。

くも膜下出血によって生じた脳の機能低下などが落ち着いたところで、記憶があいまい、日付などを間違ったりしまったりといった問題と、脚がどうもうまく動かさずにちょこちょこした歩き方になってしまったり、おしっこが漏れてしまう、おしっこを出したいのが分からないといったことが起きてきますと、水頭症を疑わなければなりません。

そのままにしておくと、どんどん進んで悪くなっていきますから、そのような時は脳神経外科の先生に頭部CTを撮ってもらおうとよいでしょう。水頭症と分かったら、治療を勧められます。頭蓋内に溜まっている髄液を身体他の部分（おなかの中など）に流す髄液短絡管（シャントと言います）を体内に埋め込む治療が多く急性期医療機関で広く行われています。

シャントはただ溜まっている髄液を流せばよいということではなく、適量の髄液を頭蓋外に誘導することが重要です。そのため、最近用いられているシャントには、水道の蛇口栓のように、シャント内を流れる髄液の流量を調節できる可変圧バルブが組み込まれていて、患者さんごとに合った量となるように手術時ないしその後調整されます。

回復期リハビリテーションでは、入院時のベッド上から座位・立位、さらに歩行へと、姿勢や生活動作などが大きく変わっていきますので、水頭症へのシャントを取り巻く環境が変化し、流れ過ぎたり、流れにくくなったりとなることがあります。そのような時には、可変圧バルブを体外から調整して、適切な流れにすることが必要です。



現在、国内では4社5種の可変圧シャントが販売されています。調節器具は種類ごとに異なりますので、当院では各社の器具をそろえて、必要時には、可変圧バルブの組み込まれたシャントが適切に髄液を流していくように調節することを行っています。

かどわき ちかふさ
院長 門脇 親房

水頭症－シャント術後の患者さまの受け入れ

患者さまを急性期病院からお受け入れする際、病状が十分安定していること、指示理解がそれなりに良好であることを前提としています。

ただ、シャント術後の患者さまは必ずしもすぐ意識レベルが良い状態になっているとは限りません。どのくらいの期間で改善されてくるかは予想出来ず、改善を待っていると、リハビリテーション（以下リハビリ）を開始するのが遅くなったり、場合によってはその機会を失ったりする可能性もあります。回復期リハビリテーション病棟は該当疾患の発症または手術から2ヶ月以内に転院することが決まりです。

当院がシャント調整出来る体制にある強みはその部分で、シャント術後少々意識レベルの低い患者さまでも、ひとまず早期に受け入れてリハビリを開始し、状態の変化に応じて調整を行なっていきます。調整のためわざわざ他院受診する必要がなく、リハビリの中断や移動の負担を回避出来ます。

リハビリを受ける現場で即対応出来、患者さまの症状の改善につながれば、ご家族の介護量軽減にもつながり、どのような生活を送っていくか考えることにも寄与します。

尚、昨年度入院された469名のうち、脳血管疾患の患者さまは240名、そのうちくも膜下出血（外傷性含む）が28名、さらにその中でシャント術後の方は17名でした。



地域連携室 主任 吉元 美菜子（医療リハビリカー）

リハビリテーション病棟における くも膜下出血後の水頭症の早期発見のために

くも膜下出血後に起こる病態として水頭症があります。水頭症に対する治療としてシャント術があります。H28年度は、当院入院後水頭症を起こしシャント目的に転院された患者さまは3名でした。水頭症は、検査（頭部CTなど）と、水頭症の3症状（意識レベル低下、歩行障害、失禁）を観察することで診断されます。当院に入院された患者さまは、この3症状がすでにある方が入院されることが多いです。そのため日常生活動作の変化で発見されます。食事を食べる姿勢の崩れであったり、失禁の回数が増えたり歩行時につまずきが出てきたりと様々です。病態の把握とともに、日常生活動作の中の異変に気付くことが大切です。私が体験した患者様は、食事動作の低下（食べるときに姿勢が崩れる）で検査し水頭症が発見されました。バイタルサインや検査だけでなく患者さまを寝たきりにせず活動させている中での観察が重要だと感じています。またシャント術終了後入院された患者様も定期的に検査（頭部CT）を行いシャント圧の調整も行っています。



そのだ のりみ
看護部長 園田 祝美

当院でシャント圧を調整しながらリハビリが進められるメリット

くも膜下出血を発症し、腹腔シャント術を受ける患者さまが多いです。当院では医師の判断によってシャント圧を適宜調整しながらリハビリを進める事が可能です。

覚醒状態が不良で、立位保持に介助が必要な方に対し、日中は離床して過ごす時間を設け、立ち上がりや歩行練習などで運動量を増やします。身体機能の向上だけでなく、脳血流の改善が見込まれます。CT検査での脳画像の定期評価や、カンファレンスでの身体機能や運動量などを情報共有することで、医師による適切なシャント圧の調整が行われています。他院に受診せずとも、当院で処置が行えることで、患者さまのわずかな状態変化にも対応することが可能となっています。

シャント圧調整後、徐々に覚醒状態が改善し、会話のやりとりがスムーズになれる方。また、尿意があいまいで失禁が多かった方が、自らトイレへ行きたいと訴えるようになられたりします。ふらつきはありましたが、フリーハンド歩行でご自宅へ退院された方もいました。

リハビリではシャント圧調整後の患者さまの変化を見落とすこと無く、日々の状態を評価しながら訓練内容を決定しています。また、医師との連携を欠かさずに行う様に心がけています。



リハビリテーション科 おおさき あき
大崎 亜季（作業療法士）

患者満足度調査アンケートより

患者さまの声

- 教えて頂いた事を次の施設でも実施します。すごく良い入院生活でした（80代・女性・ご家族さま）
- 病院の雰囲気や明るい対応にはとても好感が持てる（80代・女性・ご家族さま）
- リハビリの皆さんとの散歩は記憶に残っています（60代・男性・患者さまご本人）
- ここまで回復できて本当に感謝しています。皆さんにとても良くして頂き母もとても感謝しておりこちらを離れたくないようです（笑）（80代・女性・ご家族さま）

地域包括ケアシステムにおける当院の役割

「健康教室」「家族介護教室」で積極的に地域連携!!

今後の取組予定 2月 脳トレ（ケア24上荻）



◆ 平成29年9月～12月入院患者数と紹介元医療機関

9月から12月の4か月間における新入院患者は147名

紹介元医療機関は以下の通りです。(順不同、敬称略)

板橋中央総合病院、荻窪病院、河北総合病院、吉祥寺南病院、杏林大学医学部付属病院、久我山病院、黒沢病院(群馬)倉敷中央病院(岡山)、慶應義塾大学病院、公立昭和病院、国立国際医療研究センター病院、済生会中央病院、さいたま赤十字病院、佐々総合病院、三楽病院、品川志匠会病院、聖隷三方原病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、順天堂大学医学部附属練馬病院、高島平中央総合病院、田中脳神経外科病院、都留市立病院(山梨)、東京医科大学病院、東京医療センター、東京衛生病院、東京慈恵会医科大学附属病院、東京女子医科大学病院、東京山手メディカルセンター、新渡戸記念中野総合病院、練馬総合病院、練馬光が丘病院、碑文谷病院、防衛医科大学病院(埼玉県)、保谷厚生病院、三鷹中央病院、武蔵野赤十字病院、目白第二病院、目白病院、山中病院、立正佼成会附属佼成病院、JR東京総合病院、
他3カ所 以上、44カ所 ご紹介ありがとうございました。

～当院の現況～

	平成29年10月	平成29年11月	平成29年12月
ベッド稼働率	97.5 %	99.1 %	97.6 %
入院延べ患者数	3,091 人	3,043 人	3,103 人

在宅復帰率(直近3ヶ月)…92.9%

重症患者割合(直近6ヶ月)…38.7%

重症患者回復病棟改善割合(直近6ヶ月)…52.5%

※日常生活機能評価で10点以上の新規患者割合
※重症患者のうち4点以上改善している者の割合

交通のご案内



■JR中央線・総武線 西荻窪駅下車 北口 徒歩2分

編集後記

昨年5月発行の広報誌28号において「認知症」特集しましたが、今号では、くも膜下出血～水頭症～シャント術～回復期リハビリの流れを特集しております。皆さまに参考にしていただけたら幸いです。新しい年も職員一丸となって地域医療に貢献していく所存です！杉並リハビリテーション病院をどうぞよろしくお願いいたします。(編集委員)

医療法人社団 瑞心会
杉並リハビリテーション病院

内科・リハビリテーション科

〒167-0042

東京都杉並区西荻北 2-5-5

TEL:03-3396-3181 (代)



- 発行 行：杉並リハビリテーション病院
- 発行責任者：門 脇 親 房
- 編集 集：総 務 課

<http://suginami-reha-tokyo.jp/>
Facebookでも最新情報を配信中♪

